

AKIBA HOLDINGS

2024年3月期

第3四半期決算説明資料

2024年2月13日



1. トピックス・概況
2. 2024年3月期第3四半期決算
3. 2024年3月期業績予想
4. セグメント別概況

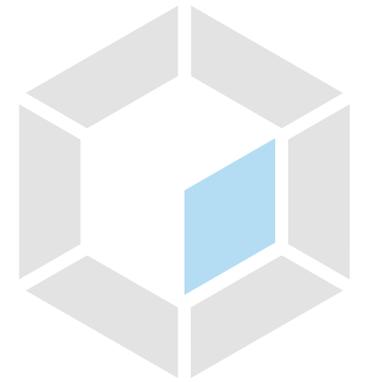
5. 参考資料

AKIBAホールディングスグループ 会社説明

※資料中の数字の単位は、別途指定ない限りすべて百万円

01

トピックス・概況



前期同Qに比べ売上及び売上総利益は累計で微増を確保するものの、成長投資による販管費の拡大から、営業利益ベースでは減益

前期同Qに比べ売上高は確保したものの減益

ケーブル等の部材枯渇により一部工事の収益化が4Qに後ろ倒れたこと、メモリ製品の販売が低調であることや、一部製品の開発の遅れや期初に見込んでいた案件の販売開始が遅れている事、主要な量産案件が次機種への開発を控え減産となったこと、将来の利益確保のための成長投資による販管費の拡大等の要因から、前年同Qに比べ減益

通期業績予想を修正

4Qに後ろ倒れた工事の収益化の進捗が見込めるものの、メモリ製品の販売が低調であることや、一部製品の開発の遅れ、将来の利益確保のための成長投資による販管費の拡大等の要因から、売上高及び各段階利益について、減収減益と通期業績予想を修正

経済環境の変化に対応する事業基盤の強化を推進

経済環境・社会環境の変化から不透明感が存在するため、先行きに対し注視が必要なものの、環境変化に対応したビジネスモデルの組み換えを実施し、安定した収益の獲得が可能な骨太な事業基盤の整備を引き続き推進

今期からセグメント名の変更を実施

現在の各事業セグメントの事業内容に従い、メモリ・PC関連デバイス・IoT事業(旧メモリ製品製造販売事業)、通信建設テック事業(旧通信コンサルティング事業)へと一部セグメント名を変更

収益機会の拡大を図るため、事業基盤の強化を進め、成長投資を実行

2024年3月期においては、コロナ禍及びウクライナ情勢等に影響を受けた世界経済は、回復基調にはあるものの、依然、マーケット環境・為替状況の急激な変化から不確実性が強く、先行きが不透明であり、不安定な事業環境が継続するものと認識しております。

このような中、本第3四半期では、売上については堅調に確保したものの、成長投資の拡大や部材枯渇の発生により一部収益が第4四半期に後ろ倒れたことなどにより、減益となっております。

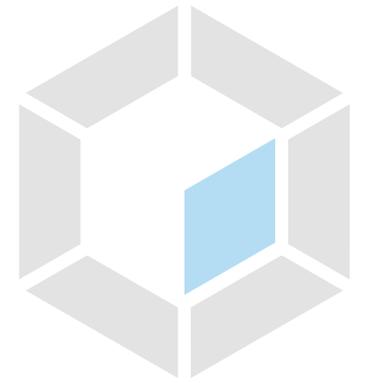
通期予想については、一部製品の開発の遅れ、棚卸評価損の発生等の要因から、売上高及び各段階利益について、減収減益の予想と修正しております。事業の成長を図るための投資を継続しており、直近では収益の獲得に関し、積み上げが充分ではないものの、新規商材の投入、成長事業への戦略投資、事業執行体制の整備により、事業基盤の強化を継続してまいります。

	2023/3 3 Q実績	2024/3 3 Q実績	前期比	2024/3 予想	前期比
売上高	10,377	10,909	105.1%	15,500	103.3%
営業利益	791	534	67.5%	750	70.5%
経常利益	759	535	70.4%	740	71.8%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	501	315	62.9%	460	65.5%
一株当たり 四半期純利益	54.64円	34.35円		50.08円	

※本資料に記載されている業績見直し等の将来に関する記述は、当社が本資料作成時点において入手可能な情報及び当該情報に基づく過程に依拠しているため、リスクや不確実性を含んでいることから、実際の業績等は様々な要因により業績見直し等とは異なる可能性があり、当社がその実現を約束するものではありません

02

2024年3月期第3四半期決算





メモリ・PC関連デバイス・IoT



株式会社アドテック

メモリ及びコンピュータ関連製品・IoTソリューション事業 等

通信建設テック



株式会社バディネット、株式会社リーバン

通信建設工事業、通信土木事業、コンタクトセンター事業 等

H P C
(高性能科学技術計算機)



株式会社H P Cテック

高性能計算機の開発・製造及び販売事業

その他
(旅館ほか)

Diamond pets & resort

株式会社ダイヤモンドペット&リゾート

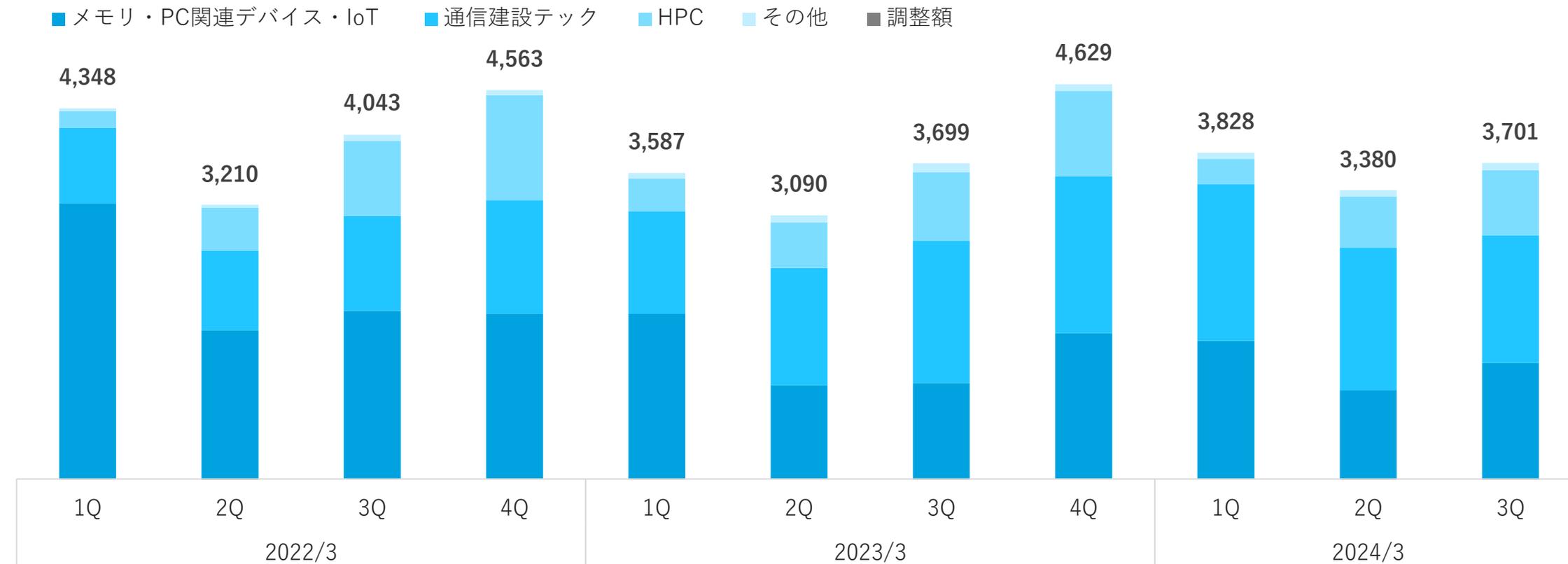
旅館事業、ペット商品事業、IT事業、イベント事業、不動産事業 等

売上高に関し堅調に確保するものの、将来への成長投資による販管費増、部材枯渇による一部工事の完工が4Qに後ろ倒れた事等により減益

	売上高	前年同期比	営業利益	前年同期比	トピックス
連結	10,909	105.1%	534	67.5%	
メモリ・PC関連デバイス ・IoT	4,024	96.7%	△98	—	メモリ関連製品の需要減、一部製品の開発の遅れ、棚卸評価損の発生等の要因により減収減益
通信建設テック	5,012	117.7%	356	90.6%	部材枯渇により一部工事の収益化が4Qに後ろ倒れ。また、事業規模の拡大のための販管費増により、前年に比べ減益
HPC (高性能科学技術計算機)	1,662	96.4%	182	105.0%	前期から推進の収益力改善努力が功を結び前期同Qに比べ減収も利益増
その他 (旅館ほか)	209	89.9%	93	114.0%	(全社費用等の調整額を含む)

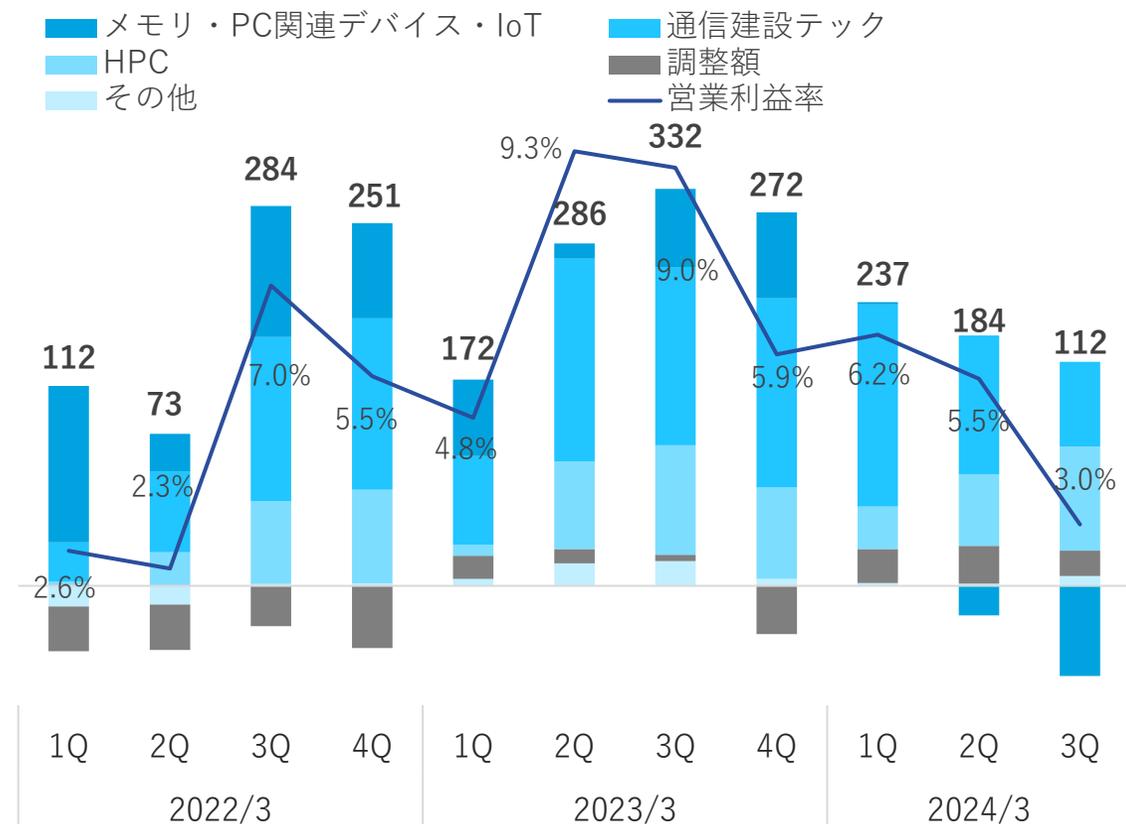
堅調に売上高を積み上げ

連結売上高

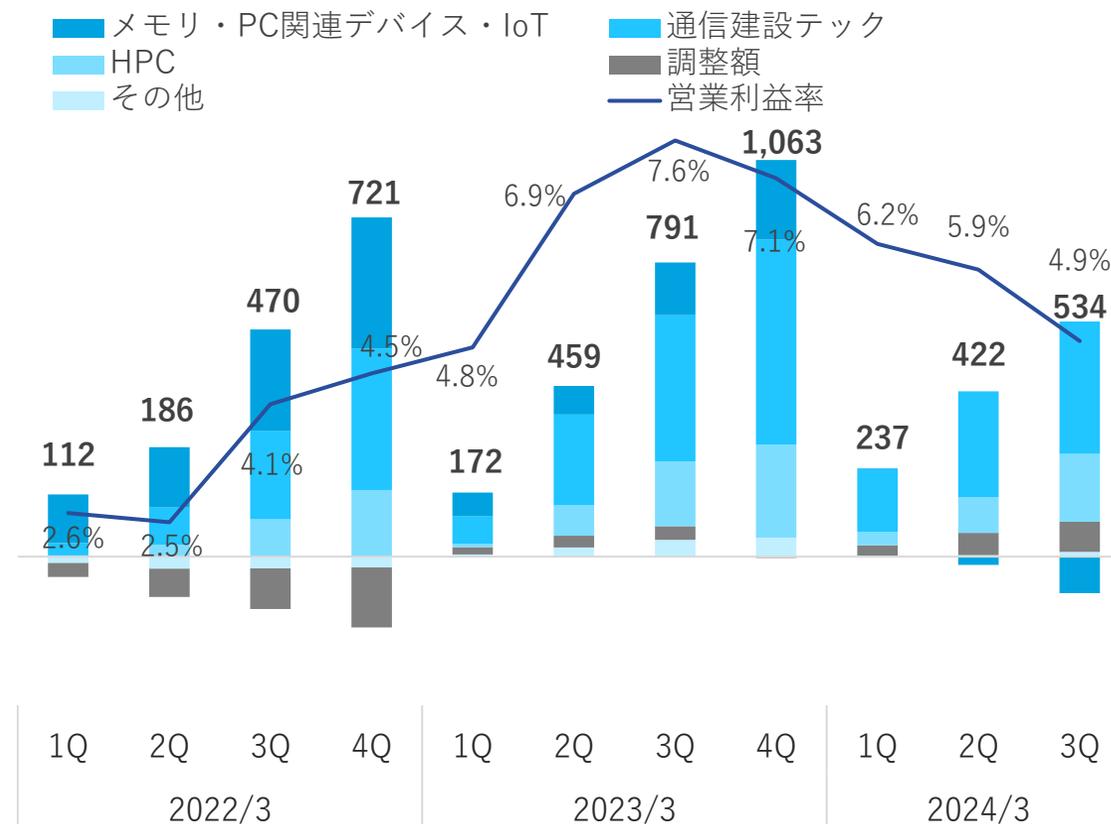


成長投資及び一部事業の遅れにより前期に比し減益

連結営業利益 会計期間

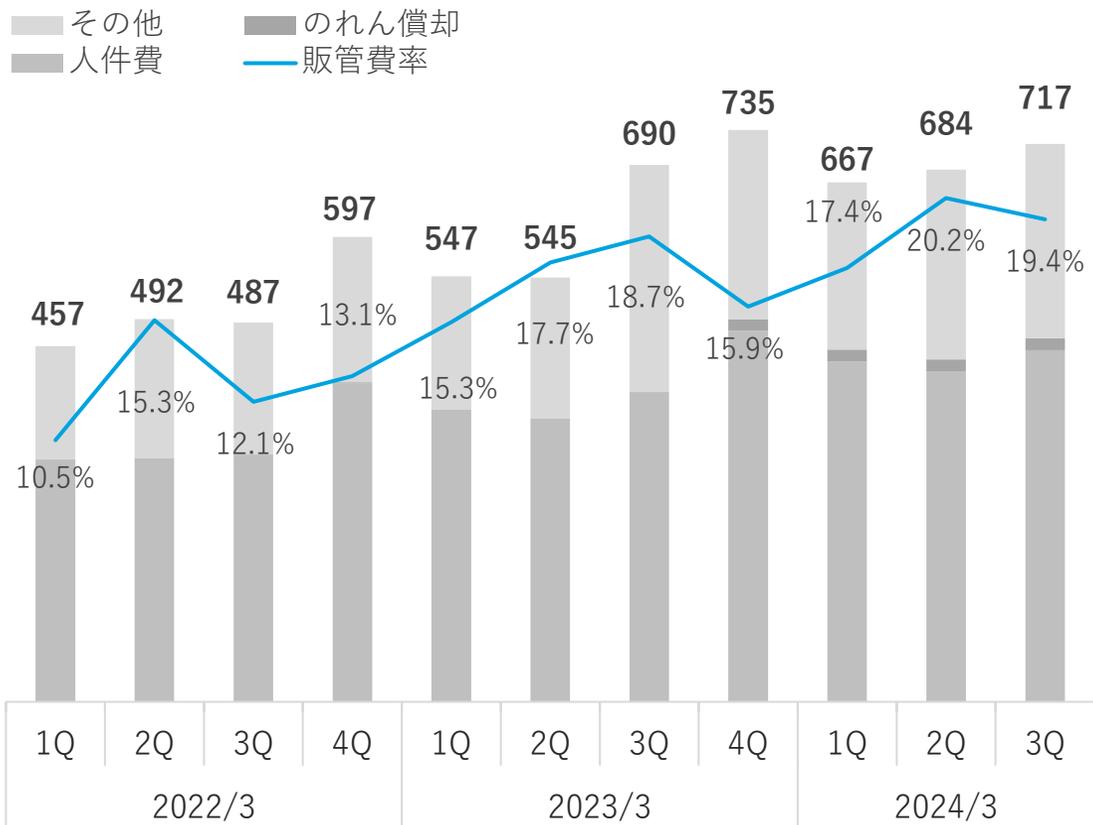


連結営業利益 累計期間

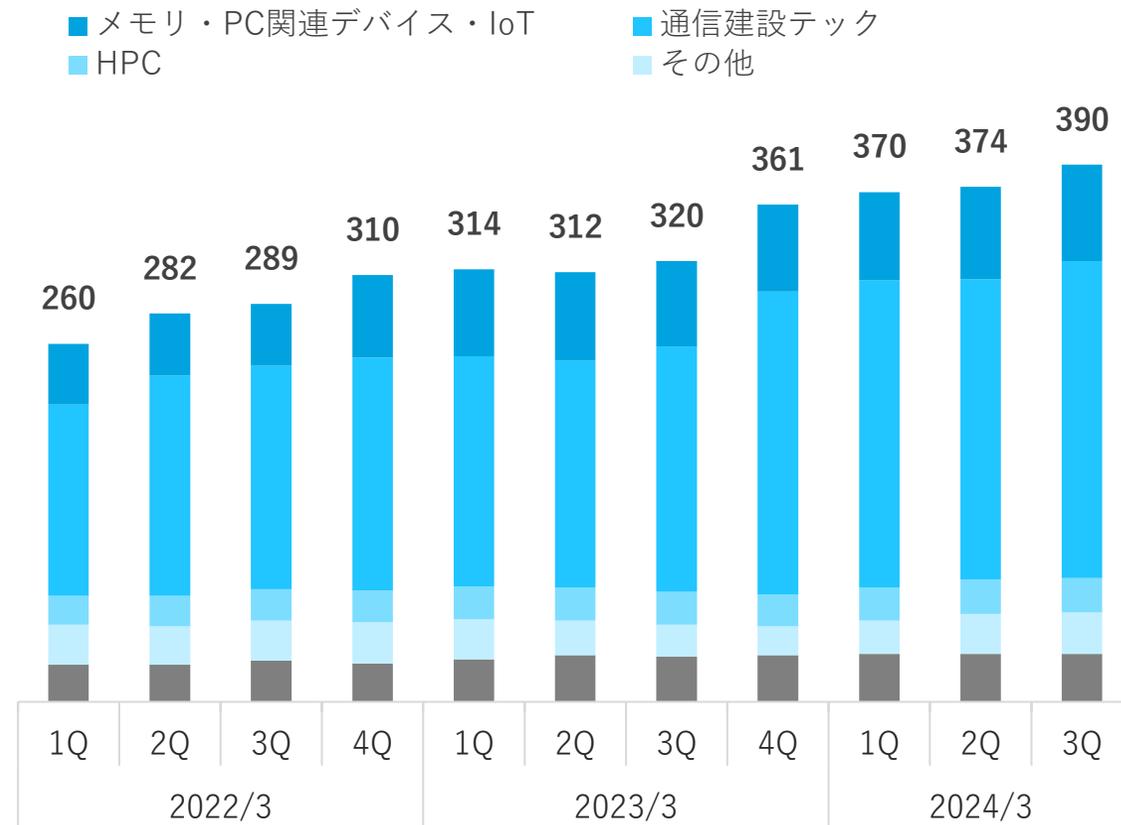


事業の成長性確保のため、人員増を促進

販売費及び一般管理費



役職員数 (人)



前期末とほぼ同規模のB/Sを維持

- 成長のための事業投資資金を確保するため、有利子負債が前期末に比べ約2億5千万円増加
- 商材の確保により、棚卸資産が増加
- 順調な利益の積み上げにより、株主資本が増加

連結貸借対照表

	2023/3	2024/3 3Q	前期末比
流動資産	9,317	9,738	104.5%
現預金	3,444	3,064	89.0%
売掛債権	4,283	4,176	97.5%
棚卸資産	1,418	2,196	154.8%
固定資産	819	865	105.6%
資産合計	10,136	10,604	104.6%
流動負債	5,798	6,199	106.9%
短期借入金	3,050	3,690	121.0%
一年以内返済予定 長期借入金	444	344	77.4%
買掛金	1,430	1,623	113.5%
固定負債	910	632	69.5%
長期借入金	702	416	59.3%
負債合計	6,709	6,832	101.8%
株主資本	3,126	3,442	110.1%
資本金	100	100	100.0%
利益剰余金	2,245	2,560	114.1%
負債・純資産合計	10,136	10,604	104.6%

売上高については増収も、利益ベースでは前年同期に比べ減益

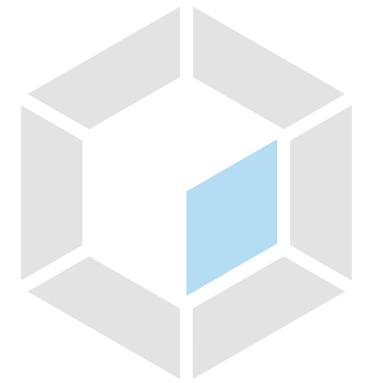
- 成長投資及びケーブル等の一部部材の枯渇により、工事の完工が4Qに後ろ倒れた事等により減益
- 事業規模拡大のための人員の確保のほか、事業基盤の強化のための成長投資、M&Aにより取得した子会社ののれん償却などの影響により販管費が増加

連結損益計算書

	2023/3 3Q	2024/3 3Q	前期比
売上高	10,377	10,909	105.1%
売上原価	7,802	8,306	106.5%
売上総利益	2,574	2,603	101.1%
販売費及び一般管理費	1,783	2,069	116.1%
営業利益	791	534	67.5%
営業外収益	7	17	231.1%
営業外費用	39	16	42.4%
経常利益	759	535	70.4%
税金等調整前四半期純利益	759	535	70.4%
法人税等合計	218	178	81.6%
四半期純利益	541	356	65.9%
非支配株主に帰属する四半期純利益	39	40	104.3%
親会社株主に帰属する四半期純利益	501	315	62.9%

03

2024年3月期業績予想



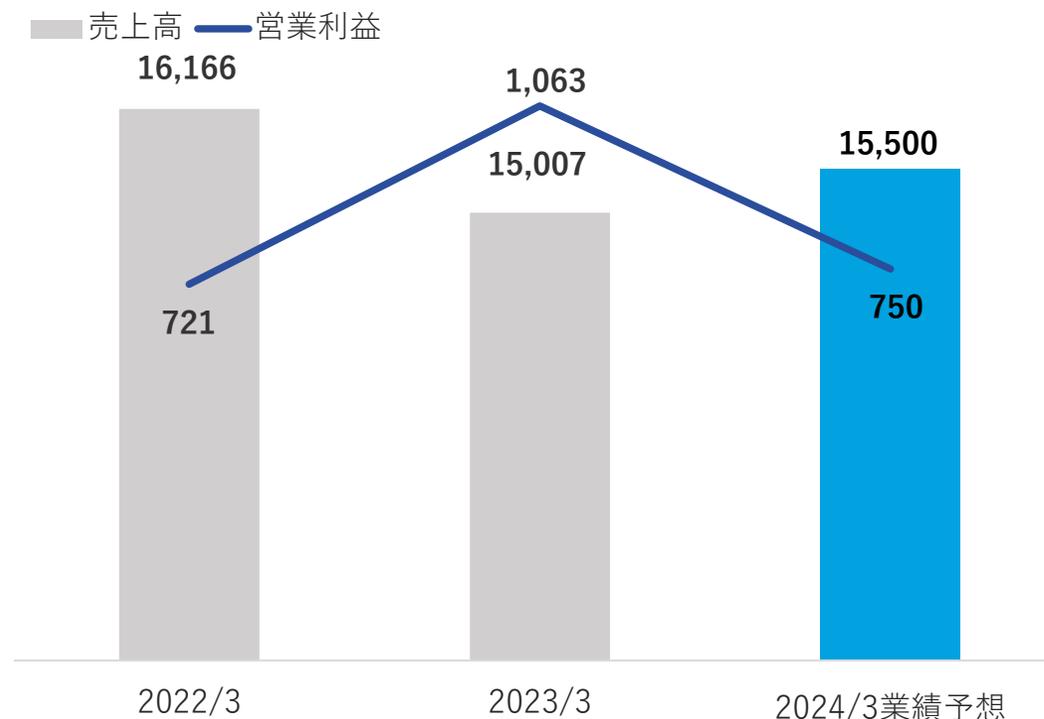
期首予想から売上高及び各段階利益を下方修正

通期予想

売上高 : 15,500 前期比 : 103.3%

営業利益 : 750 前期比 : 70.5%

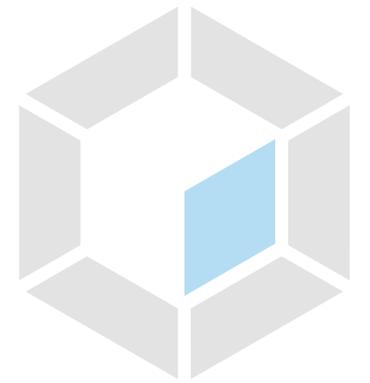
メモリ製品の販売が低調であることや、一部製品の開発の遅れ、棚卸評価損の発生、将来の利益確保のための成長投資による販管費の拡大等の要因から、売上高及び各段階利益について、減収減益と通期業績予想を修正



04-1

セグメント別概況

(メモリ・PC関連デバイス・IoT)

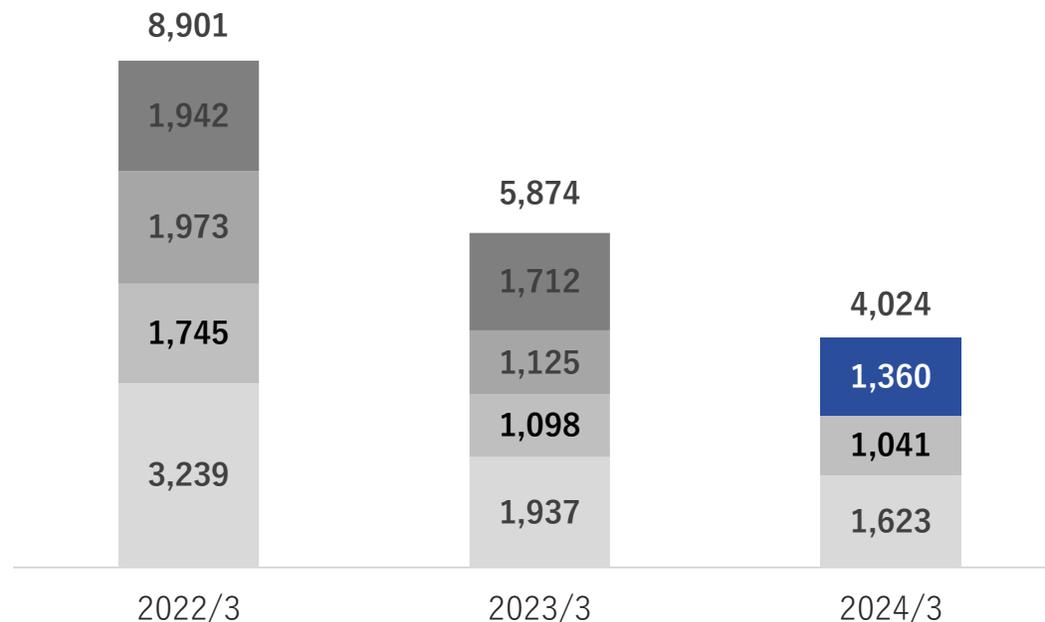


3Q累計で前年同期並みの売上高を確保

- コロナ禍及びウクライナ危機及び米欧州並びに中国等のマクロ経済環境の変動等の影響から引き続き部材の調達環境などへの注視が必要
- 法人向けや産業用製品の需要は回復しつつあるものの、PC向けの製品の出荷が伸びず、新規の需要が軟調な状況
- 一部製品に関し開発の遅れ等が生じ、当初の予定に対し出荷に遅れが発生
- B2C向け商品の拡充を更に推進し、販路の多様化及び利益の獲得構造の多様化を図る
- IoT関連製品の開発を推進し、商品構成を拡充。年度内の事業化を目指す。

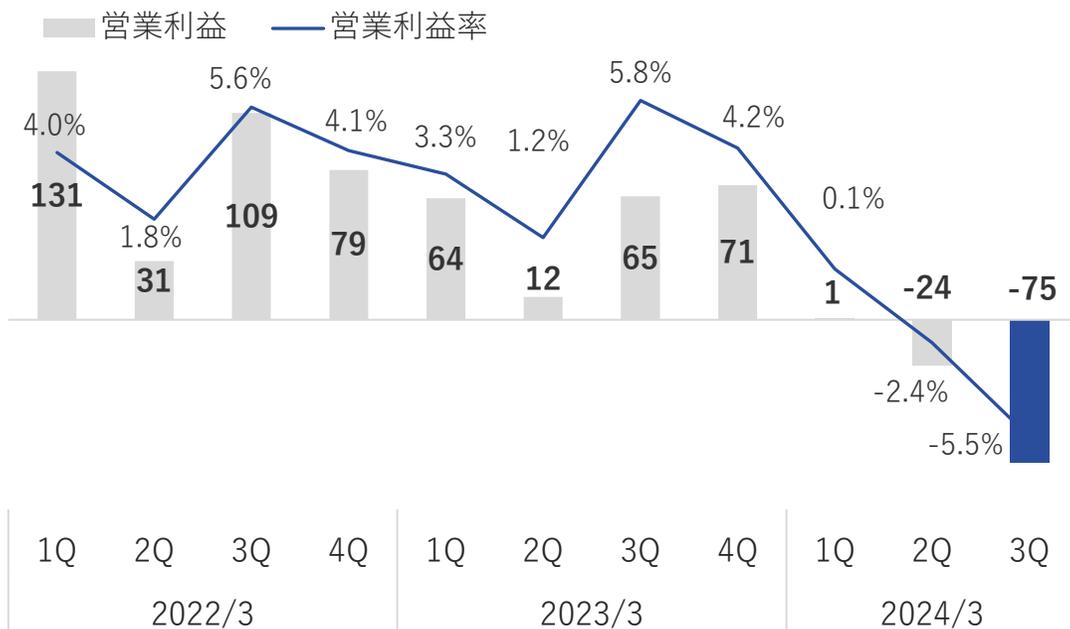
売上高

■ 4Q ■ 3Q ■ 2Q ■ 1Q

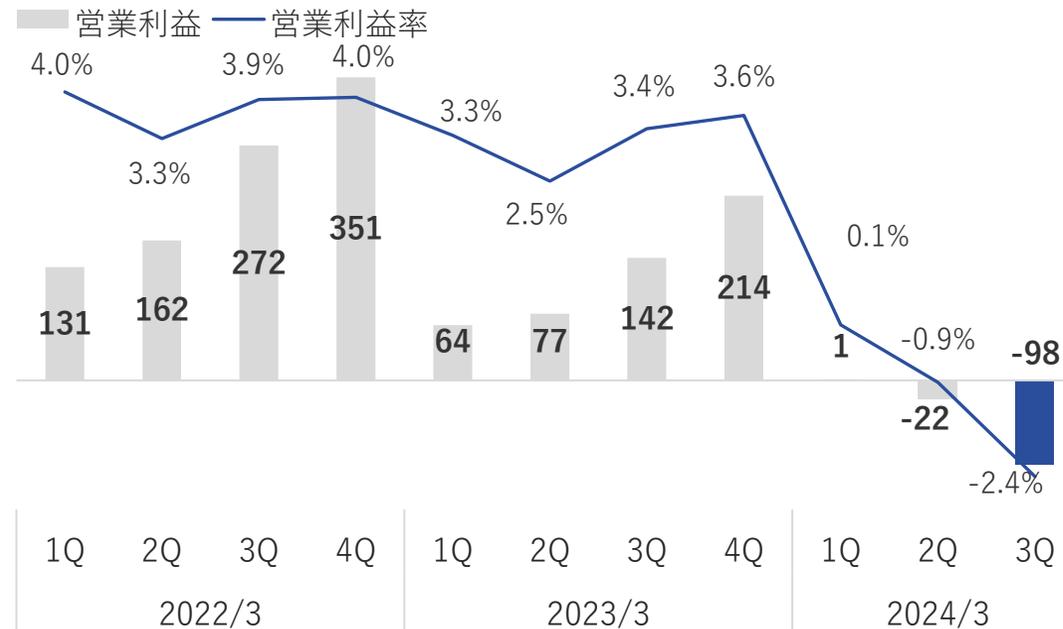


一時的な減益も、収益構造の見直しによる回復を図る

営業利益 会計期間



営業利益 累計期間



- PC需要の落ち着き及びメモリ価格の高騰により、獲得利益が減少。また、コロナ禍による部材調達難に対応し実施した棚卸資産の積み増しに関し、評価損が発生
- 部材の調達難などにより電子部品の取得原価が高騰。代替品を利用したため、利益率の低下が発生
- 一部、開発の遅れや、販売開始が遅れた製品が発生したことにより減益
- 新規商材の検討・調達のための先行投資及び新製品の開発のための販管費の増加等により減益
- 新製品の開発及び既存事業を活用した新ビジネスモデルの構築により収益獲得構造の見直しを推進

台湾およびAsia地域のIT市場調査および情報収集、パートナー連携強化を目的として、台湾オフィスを2023年11月1日に開設

設立の背景

IT関連業界において、台湾企業が強い存在感を示し、半導体をはじめとする各種IT関連製品が大きなシェアを有しております。

当社は、より国際的なネットワークを構築すべく、台湾で直接、且つ多方面から迅速に情報収集を図りながら、効果的にビジネスチャンスを得ていくことと現在までに台湾を始めとするアジア圏における調達強化ため、台北市にオフィスを開設いたしました。

今後は、台湾IT関連市場における更なるパートナーとの連携を強化し、台湾での人材獲得も積極的に行い、当社のミッションである「新たな価値を創造するソリューションカンパニー」として、お客様や販売パートナー様へより良い製品やサービスをお届けし、さらには先端技術の調査・発掘を通しスマート社会の実現に貢献いたします。

株式会社アドテック 台湾オフィスの概要

名称：株式会社アドテック 台湾オフィス
現地名：日商雅德特股份有限公司 台湾辦事處
英文名：ADTEC Corporation (Taiwan Office)
所在地：台北市内湖区民權東路六段11巷37號
設立年月日：2023年10月17日

産業用/組込み用小型PC向けの「電源ガチャ切りオプション」提供開始

～電源の瞬断や瞬低対策、組込み装置と連動したブレーカーON/OFF運用を可能に！～

「電源ガチャ切りオプション」の特徴

今回提供する「電源ガチャ切りオプション」は、データ保持機構搭載のハードウェア、書き込みフィルターのソフトウェア機能など、独自のノウハウで実現した産業用PC向けのオプションです。OSの正常なシャットダウン操作を行わない電源断に対応することで、お客さまがお持ちの様々なご要望にお応えいたします。近年、産業分野において、従来のPLCの置き換えとして産業用PCの使用が一般化しています。産業用アプリケーションにおいては、「安定稼働はもちろん、従来のPLCよりも高機能な産業用PCの性能的利便性を活かしつつ、耐久性と産業機器としての可用性をいかに確保するか」が課題となっています。

「電源ガチャ切りオプション」をご活用いただければ、このような不具合発生リスクを回避することで、お客さまのご要望に沿ったソリューションの実現が可能となります。

電源ガチャ切りオプション

ADTEC

- ✓ 電源の瞬断や瞬低対策に！
- ✓ 装置通電時の自動起動にも対応！
- ✓ 産業装置組込み時のブレーカー ON/OFF 運用！
- ✓ 様々な要求仕様に合わせた筐体のラインナップへ対応可能！

【対応モデル例】



電源の瞬断や瞬低対策イメージ



食に関するIoT分野向けのビジネスに特化した フードテックグループを新設 これまでの一次産業向けIoTビジネスに加え IoT調理関連機器の開発・販売を行い、持続可能社会 の実現に貢献していきます。



背景

現在食品に関する安全管理が注目され、HACCP（ハサップ）を始めとした、衛生管理が求められています。また持続可能社会の実現に向けた資源の削減等に各企業が注目し、取り組みが進められています。こうした背景から各種食の現場では、IoTの活用が不可欠であり、当社は一次産業向けとして、IoT端末を開発・販売し、養殖場での運用を進めている。更にこの度、製品範囲を拡大し、『フードテックグループ』を設置し、生産、流通、加工管理までを範囲としたビジネス拡大を目指す。

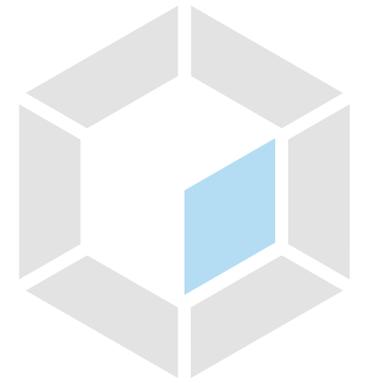
IoTを活用した調理器具 の開発

現在、自動調理器具メーカーと共同で、当社が販売するCPUモジュールを使用した、次世代の自動調理ロボットの開発を進めています。また、電界を用いた全く新しい揚げ物体験が可能な製品販売の準備を進めています。この他にも調理油の品質管理や、衛生管理に係る製品開発を複数進行しており、2024年から順次市場への投入を進めてまいります。



04-2

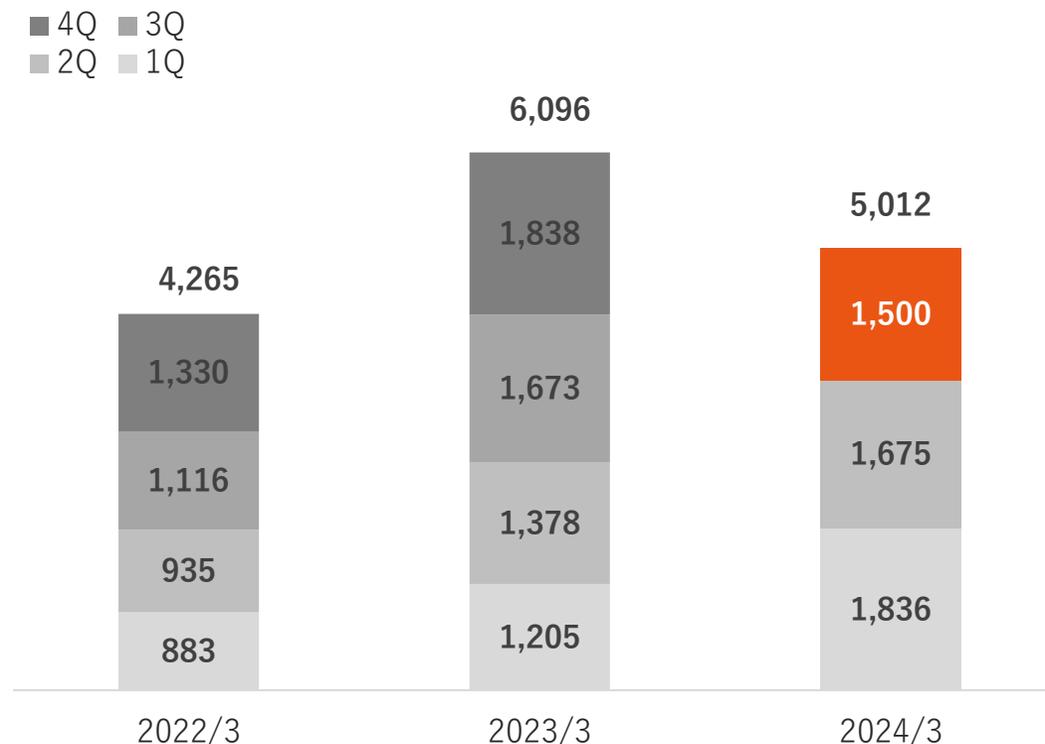
セグメント別概況 (通信建設テック)



部材枯渇により一部工事の完工が4Qに後ろ倒れも、 受注が順調に積み上がり、3Q累計では過去最高の売上高

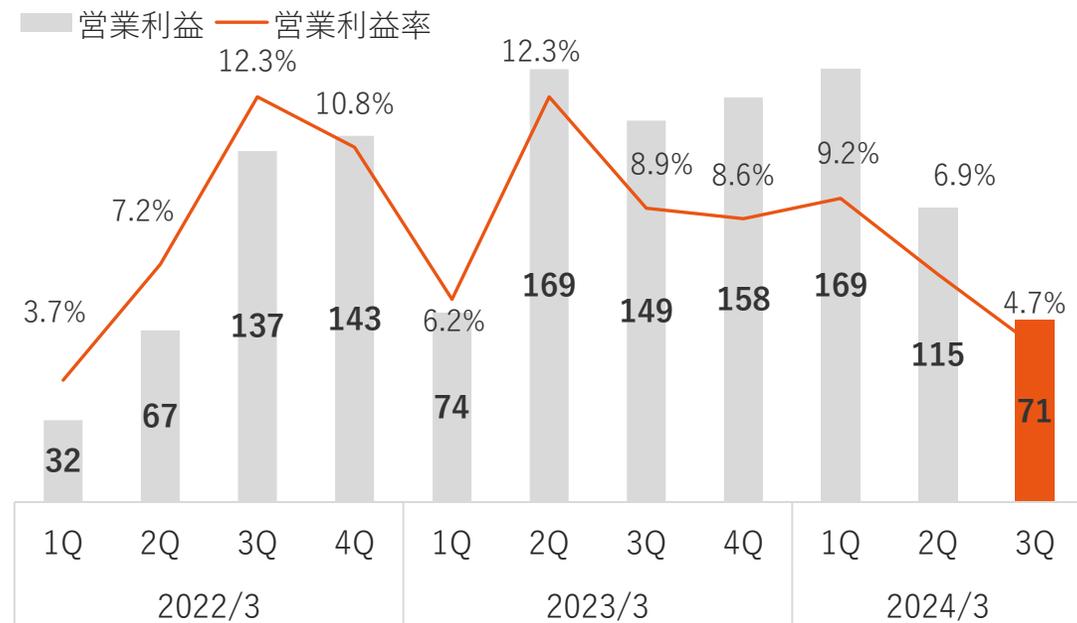
- 工事の受注件数が順調に積み上がるものの、ケーブル等の指定部材の枯渇が発生、一部工事の完工が4Qに後ろ倒れたことにより、前期同Qに比べ単Qで減収
- コンタクトセンター事業において各種新規案件の獲得を推進し受注件数の増加を推進
- 既存事業の収益化及び新規案件の開拓を推進することで、更なる成長を図る方針

売上高

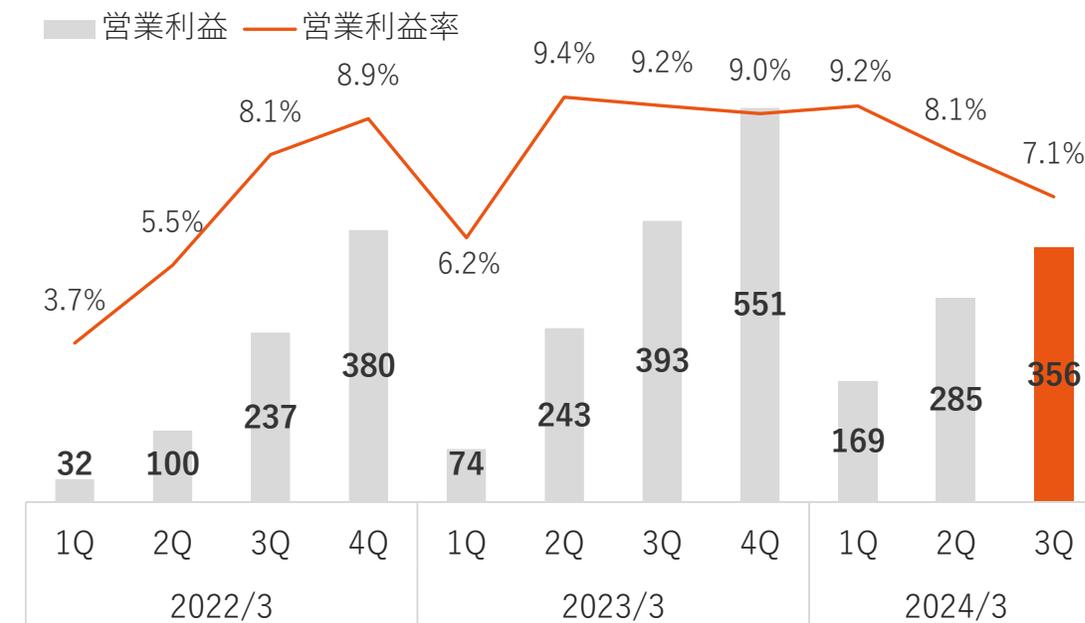


工事の受注が順調も、部材枯渇により一部工事が4Qに後ろ倒れ 成長投資による販管費等の増加により、一時利益率が低下

営業利益 会計期間



営業利益 累計期間



- キャリア3Gサービス終了に伴う関連工事を中心に各種通信建設工事の完工件数が増加
- ケーブルと言った部材枯渇が発生し、一部工事に関し3Qまでに完工せず4Qで遅れを取り戻す見込み
- 広告宣伝の実施及び事業推進体制の拡充等により事業体制の強化を図るため、販管費等の増加により一時利益率が低下

「なぜか、すごい。バディネット」プロジェクト始動。 バディネットと電気通信工事業界をオープンに。

なぜか、すごい。
バディネット



①新CM2本公開中

「なぜか、すごい。バディネット。始動編」
<https://www.youtube.com/watch?v=QCoV44vacKc>
 「なぜか、すごい。バディネット。活動編」
<https://www.youtube.com/watch?v=eU1cQZGmk7E>

②YouTubeコラボ企画

みちよば 吉村の ×



③2023プロモーション 特設サイト公開中

▼バディネットがなぜ凄いかの秘密はコチラから
<https://buddynet.jp/nazekasugoi/>

みちよば吉村のマブマブTV (Youtube) とのコラボ企画を第4回まで実施。
2人がバディネットと通信建設業界を掘り下げていくストーリーを展開。



コラボ第一弾 Movie
今日から皆さんの仲間入りした吉村でございます
みちよば、吉村に今後に関わるドッキリを仕掛ける

コラボ第二弾 Movie
3 どんな衣装にするのか?
みちよば、吉村に今後に関わるドッキリを仕掛ける
マブマブCM会議を生配信!!

コラボ第三弾 Movie
営業に行ってもらおうと思います
みちよば人生初の名刺交換

コラボ第四弾 Movie
大手キャリア3社と、なぜかすごい、リアル商談

アルコールチェック代行サービスで、サービス提携先を拡大中。 より多くの検知器やシステムとの連動が可能に。

- プレスリリース 2023.04.11 株式会社パイ・アールとサービス連携
- プレスリリース 2023.10.23 ナビッドコム株式会社とサービス連携
- プレスリリース 2023.11.8 トリプルアイズ株式会社とサービス連携
- プレスリリース 2023.11.24 株式会社東計電算とサービス連携
- プレスリリース 2023.01.10 株式会社インフォセンスとサービス連携

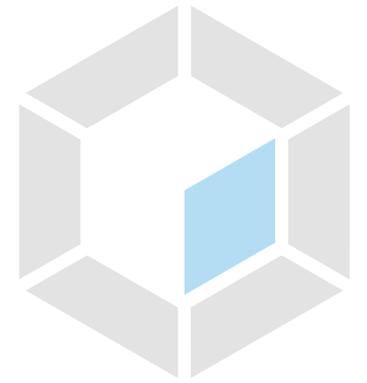
提携先企業一覧 (2024年2月現在)



引き続きサービス連携先の拡大に向けて取り組み、「**どんな検知器でも**」「**どんなシステムでも**」ワンストップ・低コストでアルコールチェック代行が可能なサービスを提供していく。

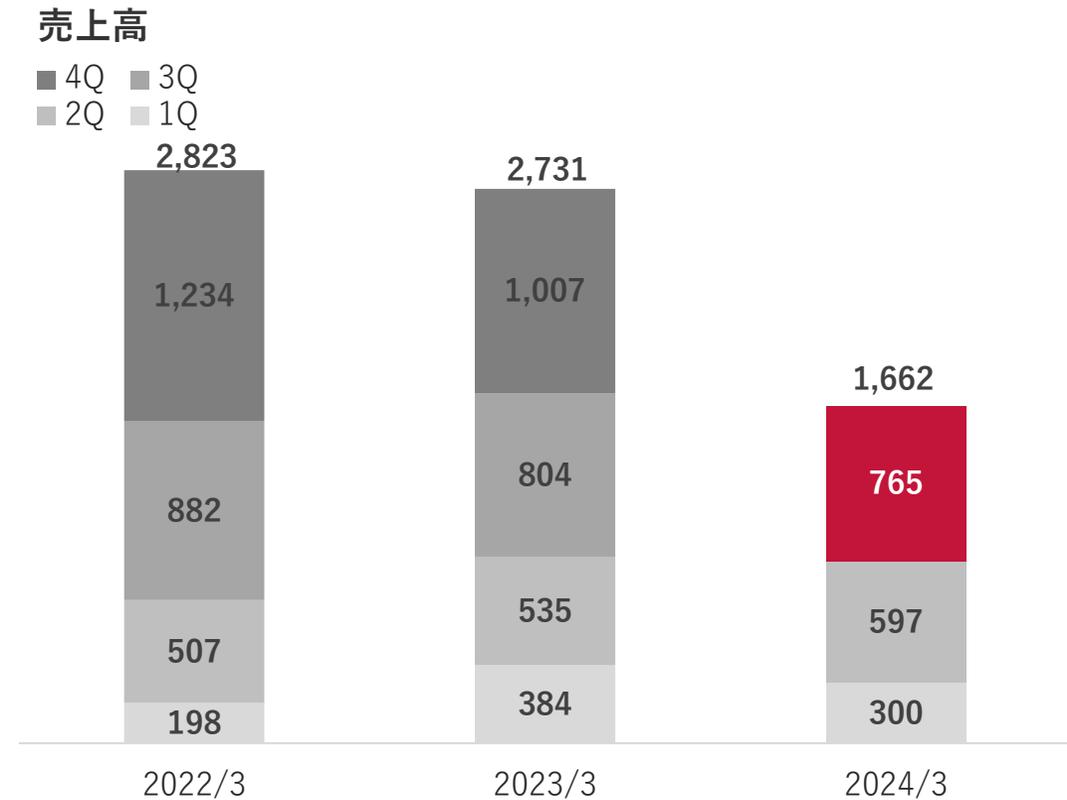
04-3

セグメント別概況 (HPC事業)



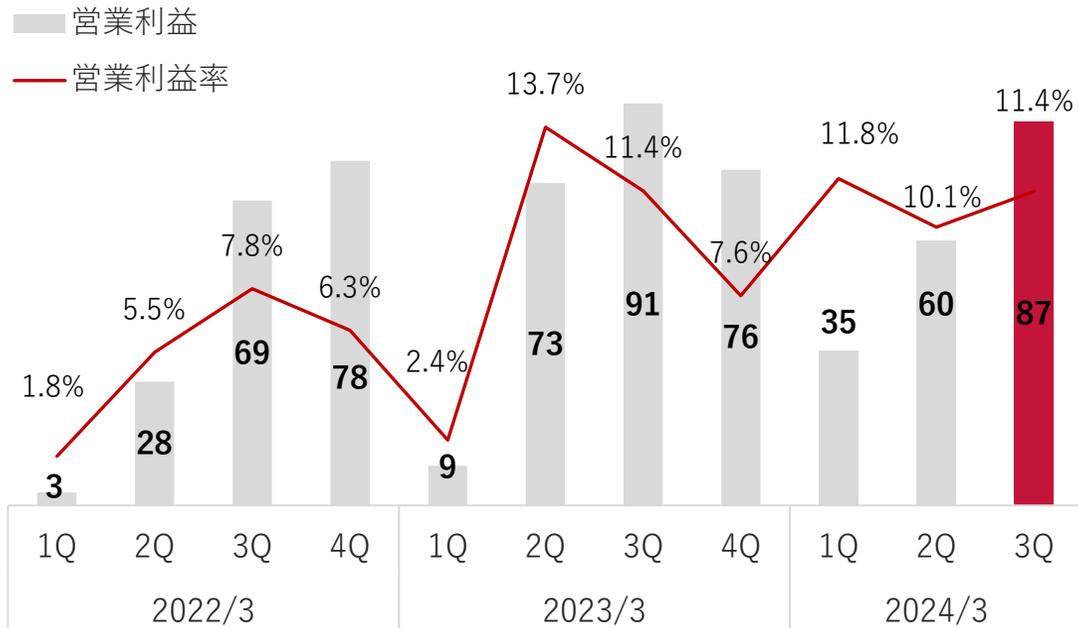
3Q累計として堅調に売上高を確保

- 拠点増設、営業人員の確保及び販売力強化を推進し、
更なる収益力の向上に努める
- コロナ禍の影響により減少していた学会の再開が進み
対面販売の機会が増加、売上の拡大を推進

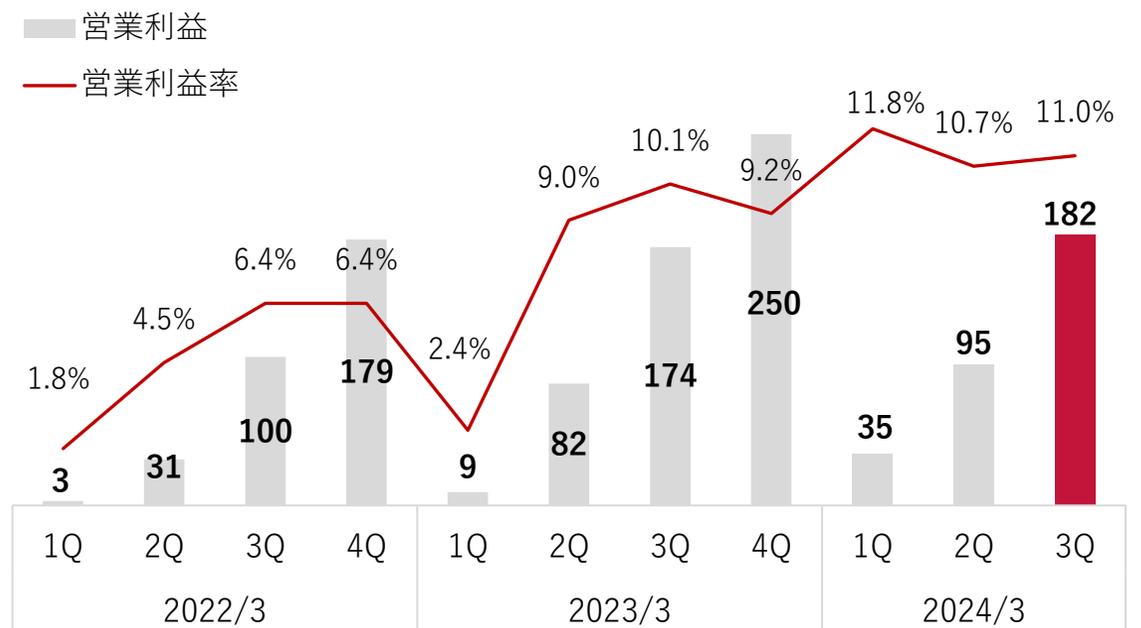


3Q累計として過去最高益を達成、順調に利益を確保

営業利益 会計期間



営業利益 累計期間



■ コロナ禍及びウクライナ危機による部材の調達難及び原価の高騰並びに円安の影響により、利益率の確保に関し懸念点があったものの、部材の先行取得及び付加価値の向上を進める事により、好調に利益を獲得

■ 学会の再開による対面販売機会が増加、キャンペーンカタログ等の販売ツールの充実を促進し、対面販売による収益機会の獲得向上にさらに努める

学会・展示会へ参加 順調に対面営業を実施

学会・展示会への参加
【機器展示】

COMSOL Conference 2023 Tokyo

2023年12月実施

第37回分子シミュレーション討論会

2023年12月実施

人工知能学会合同研究会2023

2023年11月実施

ISEM2023 | Hachioji Tokyo

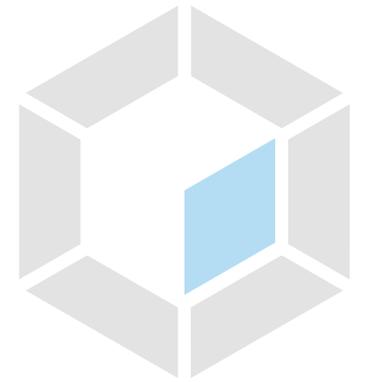
2023年11月実施

ICFD2023 – Twentieth International Conference

2023年11月実施

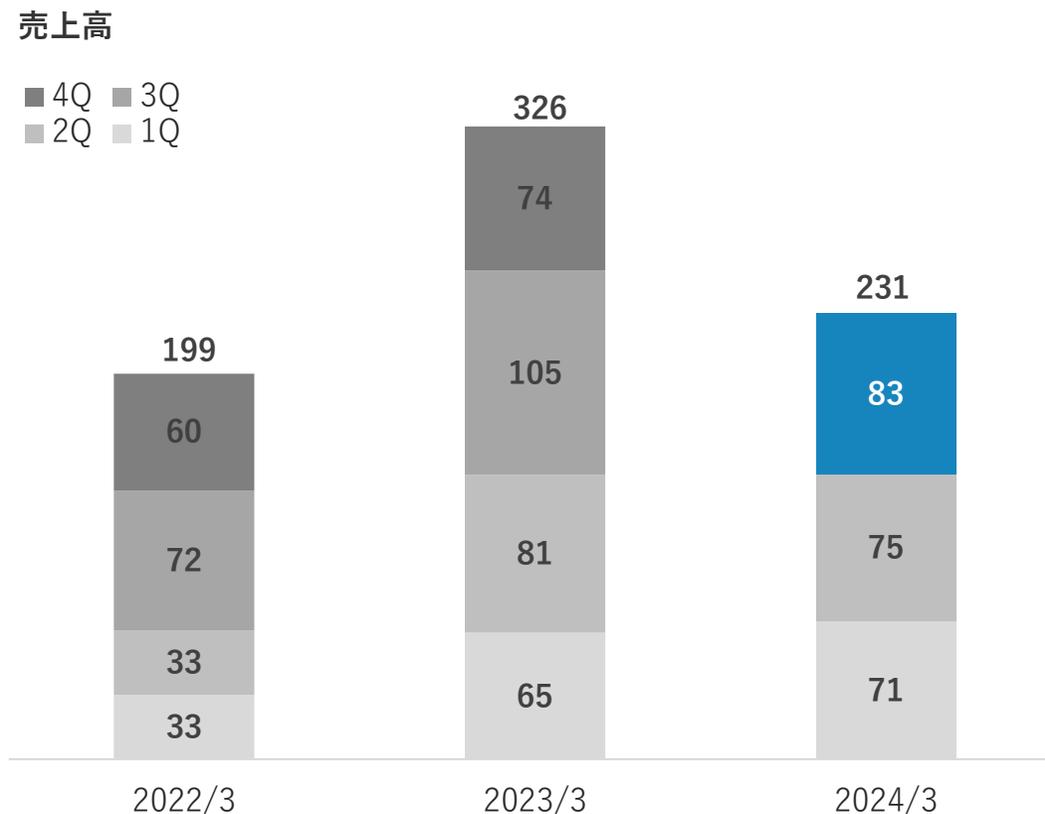
04-4

セグメント別概況 (その他事業－旅館事業－)



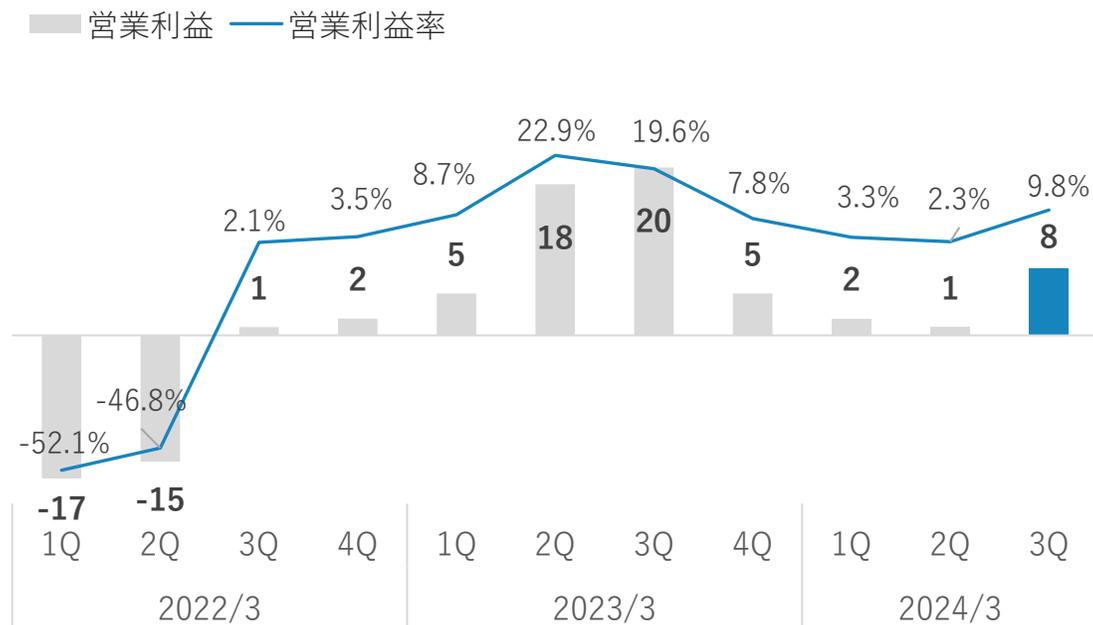
3Q累計として堅調に売上高を確保

- 紅葉の時期の遅延により想定より売上が伸びず
- コロナ関連の全国旅行支援割の終了等の影響により営業活動が苦戦。値段設定、広告等集客施策の効果的な利用により新規顧客の獲得を図るほか、リピート客の更なる掘り起こしにより、安定的な収益の獲得に努める
- 客単価の上昇、顧客満足度の向上に繋がる施策を展開することで客室回転率を上げ、売上の向上を図る方針

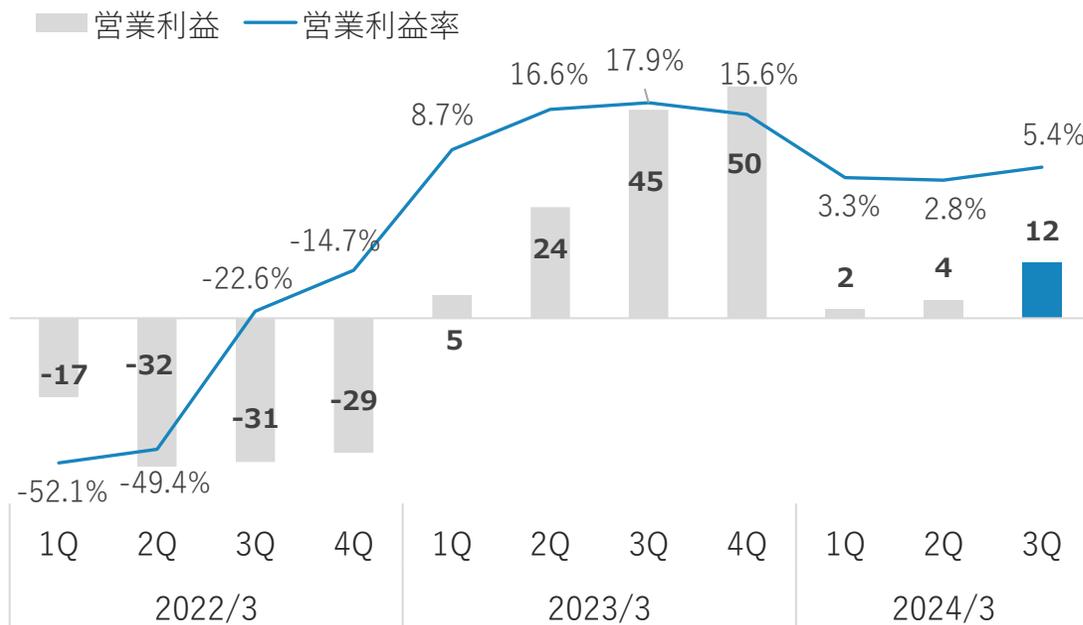


紅葉時期の遅延により集客が想定通りに進まず、収益環境が一時悪化

営業利益 会計期間



営業利益 累計期間



- 紅葉の時期に遅れがあり、当初の予定通りの稼働を得られず、収益を期待どおりに獲得できず
- 改修により露天風呂付客室を増加。屋外・屋内ドッグランを改修するなどし、顧客満足度の向上を図る
- 追加オプションによる収益機会の多様化、価格プランの見直しにより、収益環境を改善

ペット同伴可能な宿泊施設として、他の宿泊施設と明確な差別化を図った事業



経験を積んだスタッフによるサービス

お客様の大切なペットに、ストレス無く過ごしていただける様に、十分な研修・経験を積んだスタッフによるおもてなしをご提供



ペット専用メニューをご提供

鬼怒川の名産品を取り入れた、彩りが溢れるペット専用のメニューをご提供



特別室などには愛犬用露天風呂も完備

お客様用の露天風呂の隣に愛犬用の露天風呂を備えた特別室などをご提供。お食事もおやすみもペットとともに過ごせます



ホスピタリティ溢れる接客により、同伴するペットにとっても最高の旅行経験とやすらぎの時をご提供



伝統ある鬼怒川温泉でペットと共に温泉旅行を楽しめる

江戸時代中期に開湯された歴史と伝統のある鬼怒川温泉で、ゆっくりペットと温泉を楽しめる宿泊施設をご提供



格式高い純和風旅館

182平米の迎賓室をはじめ、専用露天風呂を備えたペットと共に過ごす事のできる大型の純和風の客室を多数用意



高付加価値サービスの提供

格安な宿泊施設では得られない、高付加価値サービスを提供することで、他のペット可宿泊施設との差別化を図る

改修工事を進め、収益性・顧客満足度の向上を推進



露天風呂付きの客室を増室

人気の高い、露天風呂付きの客室を増室
客単価の向上により更なる収益性の向上を期待



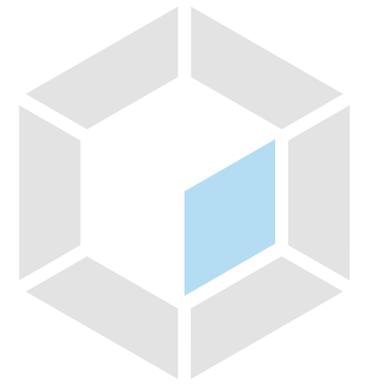
ドッグランをリニューアルし 顧客満足度の向上を図る

室内・室外ドッグランの整備・拡張を進め、
利便性を高める事により、顧客満足度の向上を推進



05

参考資料



商号	株式会社AKIBAホールディングス（旧株式会社アドテック）
上場市場	東京証券取引所スタンダード（証券コード：6840）
設立	1983年2月17日
資本金	1億円
事業内容	持株会社としてグループ全体の経営戦略の策定・推進、グループ経営の監査、その他経営管理並びにそれらに付帯する業務
決算期	3月末
役職員数	390名（連結 2023年12月末日）
本社所在地	〒104-0045 東京都中央区築地2-1-17陽光築地ビル Tel：03-3541-5068(代表) Fax：03-6260-6258

役員	代表取締役社長 堀 礼一郎 取締役 会長 馬場 正身 取締役 CFO 管理本部長 五十嵐 英 取締役 管理本部副本部長 富山 理布 取締役 グループ監査室長 後藤 憲保 取締役（社外） 丸山 一郎 取締役（社外） 黒部 得善 取締役（社外） 後藤田 翔 常勤監査役 内藤 城次郎 監査役（社外） 石本 圭司 監査役（社外） 西田 史朗 監査役（社外） 中川 英之 補欠監査役（社外） 藤浪 努
会計監査人	KDA監査法人
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社

1980年代	1983.2	株式会社アドテックを設立（商号変更により現「株式会社AKIBAホールディングス」）
1990年代	1993.6	パソコン用増設メモリモジュールの製造販売を開始
	1998.11	日本証券業協会に株式を店頭登録
2000年代	2004.12	ジャスダック証券取引所（東京証券取引所JASDAQ（スタンダード））に株式を上場
2010年代	2013.5	株式会社エッジクルー（株式会社アキバデバイス）を設立
	2015.1	株式会社バディネット（現 連結子会社）を買収
	2015.10	株式会社AKIBAホールディングスに商号変更、新設分割により株式会社アドテック（現 連結子会社）を設立、純粋持株会社体制に移行
	2016.3	iconic storage株式会社を買収
	2017.1	株式会社HPCテック（現 連結子会社）を買収
	2019.7	ウェブソリューション事業を株式会社バディネットに移管、通信コンサルティング事業に統合
2020年代	2020.5	株式会社ダイヤモンドペット&リゾート（旧 株式会社AKIBA LABO福岡）にて新規事業（ペット同伴温泉旅館「鬼怒川 絆」の運営）開始
	2020.10	ペット同伴温泉旅館「鬼怒川 絆」 グランドオープン
	2020.10	株式会社バディネットが株式会社トランテンエンジニアリングを買収
	2021.4	株式会社バディネットがiconic storage株式会社と株式会社トランテンエンジニアリングを吸収合併
	2021.10	株式会社アドテックがシーアールボックス株式会社を買収
	2022.4	東京証券取引所の市場区分の再編に伴い、東京証券取引所スタンダード市場へ移行
	2022.10	株式会社アドテックがシーアールボックス株式会社を吸収合併
	2022.11	株式会社バディネットが株式会社リーバン（現 連結子会社）を買収
	2022.12	株式会社エッジクルーから株式会社アキバデバイスに商号変更
	2024.1	株式会社アドテックが株式会社アキバデバイスを吸収合併

Business Domain

DXを次のステージへ

先進的なサービスを有するビジネスが集結

AKIBAホールディングスグループは多様なカテゴリーで社会全体のDX推進に取り組み発展させていきます。

